



いいこっつお

教育長のつぶやき

No.109

2025, 10/24

学校の当たり前を更に見直し、子ども主体に！

昨日は、「TOCO-TON !わくわく!学校改革交流会」が塩尻市の県総合教育センターにて行われました。退職してからセンターにも行く機会がなかったので、何年かぶりでセンターに行きました。TOCO-TON の実践校や自治体によるポスターセッションと、パネルディスカッションが行われ、充実した研修の機会になりました。

栄村のポスターセッションは TOCO-TON 指導主事で村に派遣されている Y 先生が行ってくださいました。ポスターセッションは2回実施されたので、私は Y 先生が村の実践や歩みのどこをどのように切り取って発表するのか、また参加される先生方がどこに関心を持たれたり、質問がなされるか大変興味があったので1回目は栄村、そして2回目は今週来村された平谷・売木・根羽の実践を聞かせていただきました。3村それぞれの取り組みと共に、3村が同じ悩みを共有し、共に知恵を出し合い足並みをそろえて取り組もうとしている実践に今後益々期待したいと感じましたし、当村ともリモートで一歩進んだ合同授業を様々な条件が整えば実践したいと考え、3村の教育長先生方に提案しているところです。



さて、パネルディスカッションは、11月13日に当村にお越しくださる大阪市立大空小学校初代校長だった木村泰子先生と3名の長野県の先生方による「これからの学校の話をしよう」というテーマで武田教育長がコーディネートして行われました。途中、栄中の三者面談の話題に振っていただき、Y 主事と共に実際三者懇談を行った、栄中の S 先生にもその時の子どもや保護者の様子をお話いただきました。運動会を子どもたちが主体で実施することやテストの回数を減らすこと、そして三者面談で子どもが司会を行うことや、子どもたちが職員会に参加し係提案などを行うことなどの取り組みは既に栄小中では実践がスタートしているので、今後は更にそうした機会を増やすと共に、本年度の課題を来年度は改善できるよう取り組みを更に進めていきたいと考えます。



さて今回のパネルディスカッションから、今後も TOCO-TON の実践を続けるにあたり3つのことを意識する必要を感じました。

①子どもにゆだねる ②子どもに問い返す ③(様々な人との)関わり(対話)を増やす といった3点について更に子ども主体で取り組めるように授業や活動も意識していきます。

また、トコトンはあくまで手段であること、教師は子どもを信頼すること、全ての人のためのウェルビーイングであること、について改めて考えることができる研修になりました。

教育委員会事務局課内会議や教育委員の皆さんとの定例教育委員会では毎月の会議の後、必ず「雑談」という時間をとっています。会議ではなかなか話せないことでも、雑談形式で「そういえば～」という話題が実は重要な要素を含んでいることが多く、参加者のコミュニケーションにも役立つからです。学校現場では先生方の雑談が消え、子どもに関わる重要共有すべき部分や教師として同僚や先輩教師から学びたい部分が削減されてしまい、多くの貴重なつながりが分断されているのも事実。対話を通じたコミュニケーションは何よりも重要な手段だと、互いにその必要感を感じていくことが大切なのだと思います。研修の機会になりました。当村の今までとこれからの取り組みの方向性が正しいのだと確信が持てる研修にもなり、Y 主事も栄中 S 先生も、そして私も益々自信を深められた時間になりました。

木村先生のお話は、全国の皆さんが感動し、共感される話なので、ぜひ11月13日はPTAの会員以外の多くの皆さんに休みを取ってでもお聞きいただきたい話です。